

学生の多様化に対応した学生調査に関する研究

杉原, 亨

<https://doi.org/10.15017/4060240>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (ライブラリーサイエンス), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	杉原 亨 (すぎはら とおる)			
論 文 名	学生の多様化に対応した学生調査に関する研究			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	廣川 佐千男
	副 査	九州大学	教授	富浦 洋一
	副 査	九州大学	准教授	多川 孝央
	副 査	東京工業大学	教授	森 雅生

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

学生の実態把握は大学評価の一つの柱であり、学生調査はそのための基本的手法として広く実施されている。従来は、主に4年制大学の一般的な学生を対象とした学習行動分析が主たる目的であった。大学進学率が50%を越えた現在では、動機や意欲やキャリアについて、学生の考え方は多様であり、従来は学生調査ではとらえられない多様化した学生に対応した学生調査が求められている。

本論文は、我が国において問題が指摘されている体育会学生と、首都への一極集中で見過ごされてきた地方短期大学学生を対象として、多様性分析のための重要項目を明らかにしている。これらの指標は、一般学生が高等教育に対して持つ学問分野の体系的習得だけでは捉えられない、多様な学生に対する学生調査の有用な指標といえる。

まず、体育会学生については、卒業後の職業についての意識という観点に着目している。具体的には、学生調査の新たな項目として将来の視点での学習の捉え方やキャリアについての考え方を表す312項目の質問項目リストを作成し、「部活動の時間が長いこと」の他「経済的に豊かな生活が仕事の目的であること」や「学習は興味関心があることに限定的」などの16個という少数の特徴で、体育会学生とそれ以外の学生を識別できることを示している。これは、従来は学生調査では得られなかった新たな知見として評価される。

次に、短期大学生については、成果を上げた学生とそうでない学生を区分する特性として、学生本人の意識と環境という2つの要因に着目している。先行研究では否定的にしか捉えられていなかった学習に対する受動的意識を、学生がそう思う理由に、短期大学生における多様性の特徴が現れていると考え、従来は学生調査にはなかった授業に対する消費者意識という観点で分析している。環境による要因については、入学後の満足度、在学時の学習効用、卒業後の相談や継続学習や行事参加などを考え、コミュニケーションという観点での21項目の質問を作成し分析し、教員への相談が一つの重要因子であることを示している。これは、学生調査への新たな枠組みとその有用性を示したもので高く評価できる。

本研究成果は、従来は学生調査ではとらえられない学生の多様化に対し、体育会学生と地方短期大学学生を対象として、多様性分析のための重要項目を明らかにし大学評価のためのデータ分析に新たな視点を示したものであり価値ある業績と認められる。

最終試験

この論文について、論文調査委員会は、令和元年12月20日10時00分から九州大学伊都キャンパスイースト1号館B324教室において、杉原亨氏及び論文調査委員の出席により、公開による論文の調査及び最終試験を実施した。論文内容について、杉原亨氏は質問に的確にかつ明確な

回答を行い、また、口頭により行われた関連の授業科目等に関する調査についても、論文調査委員を満足させる回答を行ったので、論文調査委員会は最終試験を合格と認定した。以上のことから、論文調査委員会は、杉原亨氏が博士（ライブラリーサイエンス）の学位を授与されるのに相応しいと判断した。